

中央大学大学院経済学研究科 News

台湾の諸大学との学術交流

2013年2月中旬から4月中旬までの約2ヶ月間、台湾にて国際学術交流を行ってきました。派遣元は台湾との日本側交流窓口である公益財団法人・交流協会、派遣先は台中市にある国立中興大学管理学院です。今回の派遣事業は、交流協会にとって最初の事業で、私は台湾中部の台中市に派遣されましたが、ほかに北部の台北市にある国立政治大学、南部の高雄市にある国立中山大学に派遣された先生もおられます。

私は、最近、中国大陸・香港・台湾・日本の相互依存関係に関心を持っており、今回は台湾サイドからそれを研究できるとあって喜んで出かけました。中興大学国際政治研究所所長の蔡東杰教授のお計らいにより、2カ月間に、中興大学の学生を対象に8回の授業（1回3時間）をする機会のほか、国立政治大学、国立彰化師範大学（彰化市）、国立台中科技大学（台中市）、国立中山大学（高雄市）で講演をする機会がありました。政治大学と台中科技大学での講演以外はすべて中国語で話しをしました。ただし、日本語で話しをした際にもパワーポイント資料は中国語版を使用しました。



国立中興大学管理学院の建物、手前は中興湖

中国語（北京語、普通語）初級以下を自認する私にとって、中国語で2〜3時間の話しをするのは大変な冒険でした。実際、授業や講演の前（数日間）は資料の準備・作成に追われ、その影響で、観光できたのは、台湾中部・南投県にある日月潭だけでした。意外だったのは、台中市や台北市では台湾語ではなくて北京語（普通語）が一般に使用されており、少々の北京語しか話せなかった私にとっては幸運でした。しかし、それでも2つの問題がありました。

1つは、発音は北京語とはいえ、漢字は簡体字ではなくて繁体字であることです。私が使用した中国語ソフトは簡体字・繁体字両対応なので助かりましたが、簡体字は知っていても繁体字はこれで正しいかどうか迷うことがたびたびありました。

もう1つは、大陸と台湾とでは主要な経済用語の表記が異なることです。例えば、国内総生産は大陸では「国内生产总值」ですが、台湾では「國內生産毛額」です。経済成長も、大陸では「经济增长」ですが、台湾では「經濟成長」です。台湾の経済データを見ていて、大陸の中国統計年鑑で見慣れていたものとは異なる表記が使用されているのを発見して焦りました。すぐに台中市内の大きな本屋に出向き、台湾の経済学テキストを何冊か買い込んできて、それを参考にして、すでに作成済みの資料で使っていた経済用語を見直して書き直しをしました。

冷や汗続きの台湾生活でしたが、毎晩のように夜市に行っては安くておいしい台湾料理を満喫しました（宿舎から夜市までは徒歩5分でした）。また、WBC（World Baseball Classic）の予選が台中市でも開催されることを知り、早速ファミリーマートでチケットを入手して、観戦することができました。

No.22

私が大学で話しをしたときのテーマは、最近の日本の経済政策、経済成長戦略、対アジア経済戦略といったものでした。明治から平成までの経済史について話しをする機会もあり、私にとっては非常に挑戦しがいのあるものでした。参加者は、先生方を除くと、大学院生と学部生でした。大学院生は主にアジア研究や日本研究の修士学生で、日本については一定の知識をお持ちでした。学部生の場合は、経済学、経営学、会計学、動物学、生物学、農学など専攻は様々でした。どの人も、アベノミクスのことを知っていて、その話をすると皆さん興味津々でした。1年前後で内閣が交代する最近の日本の政治状況について数字を使って話しをしたときには、さすがに驚きの声があがりました。



3月26日 国立中山大学大学院での講演模様

2カ月という短期の滞在でしたが、多数の発見がありました。自動車と同じくらいオートバイ（日本のスクーター）が走っていたこと、自動車は日本車ばかりであったこと、明確に区別された歩道が少なく、危険を感じながら歩いたこと、バスは乗車距離が8キロ以下なら無料であること、日本のアニメ・漫画文化がかなり浸透していること（日月潭近くの観光地ではOne Pieceがメイン・キャラクターでした）、大学では英語教育が盛んで、第二外国語では日本語が下火で、ハングル学習者が増えていること、など。全体的には、親日的で、どこに行っても親切な対応をしていただきました。所得水準が先進国水準にありながら、物価水準が日本より相当低いことから、豊かな生活を満喫する人が多いせいでしょうか、大陸ではあまり感じなかつ

2013年7月30日

た余裕やゆとりを感じました。

台湾への出発時に、Facebookでの最後の書き込みのつもりで、「これから台湾に行く」と書いたら、東大法学部卒・Harvard Law School修了・大蔵省（現財務省）出身で現在新潟大学で教鞭を執る高校同期生が、台湾の動向を皆に知らせよとコメントしたことから、一日数回、Facebookに台湾日記を書きはじめました。超エリートを含む3人の高校同期生のFacebook仲間がいつも「いいね！」を押してくれたので、ついつい気が緩んでFacebook日記を続けることになりました。

今回の台湾訪問での一番の収穫は、何と言っても沢山の先生方と交流できたことでした。特に国立中興大学の蔡東杰教授と林丙輝教授（管理学院院長）には大変お世話になりました。6月下旬に、林教授が同大学の李超雄准教授と共に来日（関西方面へのご出張）された際に、時間の合間を縫って中央大学にご足労いただいたのは感謝感激でした。再会を喜びながら、今後は中興大学と中央大学の学術交流をぜひ推進しましょうと約束をして東京駅でお別れしました。

私はこれまで中国の大陸各地によくかけておりましたが、今後は台湾にもときどき行って交流を深めたいと考えています。

（大陸や台湾とご縁のある方はぜひ私に話しかけてください。）



国立中興大学の先生方との会食後の記念写真

（谷口洋志記）